

あすぴあ登録団体 & 市民活動団体の紹介

こんな活動をしています

Vol. 50

あすぴあ広報部会が取材しています。



▲カウンター



▲タイマー

小平市ゲートボール連盟

ゲートボールは日本で生まれたスポーツです。小平市ゲートボール連盟会長の瀧澤照夫さんにお話を伺い、小川2丁目広場でのゲーム練習を見学しました。

ヨーロッパで盛んだった「クロッカー」をヒントに昭和22年北海道の鈴木栄治氏（後に和伸と改名）が青少年のために考案したスポーツで、年齢・性別・身体的状況・言葉の違いに関係なく、すべての人が楽しめるユニバーサルスポーツとして、今では、世界32か国地域に普及しているそうです。



▲小川第2丁目市民広場でのプレーヤー達

ゲームは、1チーム5人ずつの赤チーム・白チームの対抗戦で、競技時間は30分。作戦を立て協力

しながら勝利を目指します。プレーヤー全員の腕にカウンターを付けて、点数を入力します。また、タイマーが「あと10分、あと5分」と音声で残り時間を知らせます。約80年前からのスポーツが進化していると思われました。ゲーム中はそれぞれ声をかけながら、楽しそうでした。戦国武将に因んだ川中島・真田流・大返し・燕返しなどの面白い定石もあるそうです。ゲートボールは「シニアのスポーツ」と思われがちですが、全国で小学生から大学生の大会も開かれています。市内にも沢山のチームがあり、市内・多摩地区・全国競技大会にも出場しているそうです。小平市ゲートボール連盟は、小学校の放課後教室で指導をしてプレーしていたそうですが、指導者の高齢化のため、昨年からやむを得ず中断をしているそうです。また、聴覚障がい者と手話通訳者が協力してゲー

ムをすることもあるそうです。

小平市内では現在、「花小金井南公民館グラウンド」「小川2丁目市民広場」「あかしあ第2児童公園」「鈴木地域センター公園」の4か所で練習しています。

小平市ゲートボール連盟では、会員の募集もしています。見学・お試し参加も出来ますし、スティックを借りることもできます。ゲートボールと一緒に楽しむ人を増やしたいそうです。（安）



▲小平市ゲートボール連盟

DATA

連絡先●042-344-6148

(小平市ゲートボール連盟会長・瀧澤照夫)

会費●2400円(年間)

メール●taki9291002sasuke@gmail.com

小平市ボッチャ協会

パラリンピックの正式競技として知られるボッチャはヨーロッパに起源を持ち、ボッチャ(Boccia)とはイタリア語で「ボール」を意味します。日本でもリオと東京のパラリンピックでメダル獲得以来急速に一般へ広がり、今では障がいの有無に関係なく、老若男女誰もが楽しめるスポーツとなっています。

小平市のシルバー大学卒業生が2018年中央公民館主催のボッチャ体験会に参加したのがきっかけでボッチャサークルが誕生。この時の人数は15人でしたが、徐々に市内にサークルが増え、2021年に小平市ボッチャ協会が設立されました。現在は10サークル、子どもから90代まで、200人ほどが市内の公民館や地域センターで活動しています。

協会の全体練習日に中央公民館を訪ねました。



▲取材日(2026年1月)の練習風景

地下レクリエーション室にコートが引かれ、赤と青のボール各6個と白のジャックボール(目標球)を使用して練習試合中。赤、青のチームに分かれジャックボールに近づくか、和やかな中にも勝つための真剣さが漂っていました。「小学生とも障がいのある人とも誰とでも同等にプレーできるのが素晴らしい。こんなスポーツって他にないですよ」と語るのはボッチャ歴2年の女性。

協会設立当初から代表を務めている藤原靖史さんは「以前はボッチャを知らない人も多かったので、市内のイベント等に参加して体験会をあちこちで開きました。ボッチャを小平に普及したいという思いが強かったですね。高齢者の居場所づくり、友だちづくり、子どもたちからも元気をもらえます。誰でもスッと入れて面白い。けれどもやるほどに奥が深いスポーツですね」と話します。

2025年度は小平市こだッチャ杯、家族大会、協会大会2回を開催。ボランティア活動として市内小学校の放課後教室や高齢者施設、デイサービスへの出前ボッチャ、福祉体験学習への協力などを実施。2024年度はボランティア回数51回、会員の参加人数は延べ406人に上り、2025年度はもっと増えたそうです。

身体に支障があり試合会場に出向けなくても参加できる「遠隔ボッチャ」の実行に向けて調査、研究も進行中。共生社会をめざして、今後の活動が期待されます。(ま)

▼2025年2月の小平市ボッチャ協会大会



DATA

連絡先●080-5544-0554(藤原)

小平ターゲット・バードゴルフ協会

昨年の12月26日(金)に萩山駅の近くの萩山公園グランドで出竿協会代表にお会いして取材を致しました。

傘入れショットシーン(12/16)▼



当日はゴルフの練習日で、参加者がグループに分かれて、ゴルフコースの設定をしているところでした。

ゴルフ場ではないので、毎回使用者がコース設定をします。会員同士が会話をしながら作業をしますので、懇親を深めるのに良いです。

当日会長から伺った話から会の姿を纏めてみると以下ようになります。

□協会の設立とその目的

設立は2000年4月で、東京都TBG協会から要請を受けて、有志3人(牧氏、小佐氏、近松氏)が国分寺協会のご協力を得て設立。その目的は、「生涯スポーツとして、ターゲット・バードゴルフの普及振興を図り、小平市民の健康作りにも貢献する。」です。

□名称・初代会長・その活動

設立時の名称は「小平ターゲット・バードゴルフクラブ」で、初代会長は有志の中の牧健次郎氏でした。5年の在任期間に、会員増強等のために運営マニュアルの制定、小平市体育協会への加盟申請、名称の協会への改称等を行い、協会の基礎を築か

れました。

□その後の20年間の活動

6名の会長が4年任期で運営され、運営の分科会方式化をはじめ、スポーツ傷害保険への加入を行い更なる体制の強化に努めてくるとともに元気村NPOフェスタへの参加やポスター等での普及活動の強化を図るとともに、隣接市との交流会や15年・20年の記念事業を開催をし、記念誌を作成している。

□協会の課題

2009年に90名いた会員が2026年現在では60名に減っている。高齢化が進んでいるのもその要因の一つであるが、人生百年時代に心身共に健康を維持していくためには、地域の仲間が集まり、ルールに乗っ取って軽い運動をするのが一番だと思います。これまでのチラシ等による広報に加え、今回のあすぴあ通信の広報を機会にメールやスマホによる広報も検討するそうです。(細)



▲1月21日の参加者

DATA

会長●出竿恒夫

連絡先●090-3699-6300(熊谷健一)

メール●kuma-kmsy108@jcom.home.ne.jp

会費●700円/月